

1 授業実践について

(1) 学年・単元名

第 (6) 学年 単元名 「 大地のつくりと変化 」

(2) 単元学習計画案

学習過程	児童の学習活動	時数
ふれる	・地層をつくっているものを知る。 (インターネット、ボーリング試料、博物館の展示、実際の地層)	2 時間
さぐる	・水のはたらきによる地層のでき方を調べ考察する。(堆積のモデル図)	1 時間(本時)
	・水のはたらきによる地層のでき方を調べ考察する。(ペットボトル)	1 時間
	・火山灰のつぶの特徴を海岸の砂と比較しながら調べる。	1 時間
	・火山活動や地震による大地の変化について調べる。	2 時間
いかす	・火山活動や地震と私たちの暮らしとの関係について調べ、防災マップを作成し、生活につなげる。	2 時間

(3) 想定される展開

想定される学習活動や児童の様子	想定される指導
○結果を交流する。 【堆積のモデル図】 ・底にれきが堆積していることが分かる。 ・れきの上に砂や泥が堆積していることが分かる。 ・2 回目の実験で堆積した層も 1 回目と同じ規則で堆積している。 ○全体で結果から考えられることを交流し、結論を導き出す。 T:「各班の結果で同じところは何ですか。」 A:「どの班も一番下の層は、れきの層です。」 イ:「下の層から、れき→砂・泥→れき→砂・泥と堆積しています。」 T:「これらのことから何が考えられますか。」 ウ:「2 つの実験結果から、れき・砂・泥は粒の大きさによって沈む速さが変わるかられき・砂・泥に分かれていると考えられます。」	○実験に使う土は、自然の採取ではなく、あらかじめふるいにかけておき、れき・砂・泥の割合を調整しておいたものを準備することで、しま模様になることに気づけるようにする。 ○1 回目の操作と 2 回目の操作で形成される層をできるだけはっきり分かるようにするために、1 回目の実験をしたら、濁りがある程度薄くなるまで待ってから 2 回目の実験をさせる。 ○発表させる際に同じ規則で並んでいることに気づかせるため、結果を班毎に用紙にまとめさせておく。 ○各班の実験結果(堆積のモデル図)の同じところを問いかけることで、堆積する順番に規則があることを気付かせる。 ○2 回の実験結果から考えられることを問いかけることで、れき・砂・泥は粒の大きさによって沈む速さが異なるため、れき・砂・泥に分かれて堆積することに気付かせる。 ○各班に、実験結果から考えられることを発表させる。 ○川や海と堆積のモデル実験を関係付けて考えさ

<p>T:「川や海の堆積の仕方とモデル図の実験結果を関係付けるとどのように結論付けることができますが。」</p> <p>オ:「流れる水の働きにより運搬されたれき・砂・泥が粒の大きさによって分かれて堆積します。」</p> <p>カ:「くり返し堆積することで、地層を形成しています。」</p>	<p>せることで、流れる水の働きにより運搬されたれき・砂・泥が粒の大きさによって分かれて堆積し、それをくり返して、地層を形成していると結論付けさせる。</p>
--	---

2 全体を通しての所感

複数の観察・実験結果を整理し、それらを根拠に考察させることで、より妥当な考えに近づけると感じた。また、考察の部分に至るまでの学習過程にも目を向けておく必要性を強く感じた。児童の興味を持たせ、疑問を引き出し、児童の言葉を使った学習問題が設定できるよう、事象提示にも力を入れていきたい。